

令和6年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
ひろかわ幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、保育方針や保育目標を掲げ、保育課程・指導計画を作成。保育指針が、0歳・1歳・2歳児の保育の重要性と記載の充実があげられていることから、個々の子どもの発達を踏まえた上での年間計画や月間計画をたて、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるようこれからの保育実践につなげていく。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	異年齢児保育を通して、子どもたちはお互いに関わり合いながら生活をしている姿が見られる。保育者も子どもたちの生活の実態を把握しながら、子どもの興味や関心が具体性をもって子ども自らが自主的・主体的に実現できるよう取り組んだ。配慮が必要な園児が増え個別の対応をおこなっている。就学を控えた5歳児も、随分落ち着いて話を聴き活動できるようになった。3歳、4歳児も自分の気持ちや経験したことを自分の言葉で表現できるようこれからもねらいを立てて計画的に実践していきたい。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	幸輪会の理念を職員の一人一人が理解し子どもたちにとって必要な環境整備を行っている。保育者は専門的な知識や技能面について、日々の保育実践から引き続き習得中である。保育経験に関わらず常に知識の習得と技術の向上を前向きに目指し、誠実に子ども一人ひとりと向かい合い、関わり合い、育ち合う保育者集団を目指したい。
IV 保護者への対応・支援	守秘義務については全員が遵守している。保護者としての立場を尊重しつつ家庭と対等な関係を築いて互いに情報を共有し、協力しながら子どもの育ちを支援、子どもの成長の喜びを共有していきたい。保護者に保育方針や保育の説明をし、同じ方向を向いて保育子育てを行っていただけるようにする。保護者の気持ちに寄り添った言動を心掛けていく。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	園庭での野菜栽培や地域の畑を借りた芋掘り体験・実食、梅干し作りやみそ作りを通して自然の恵みとしての食材への興味や関心をもつことができた。また、年長児は、校区の小学校から園での活動の様子を参観してもらったり校舎見学及び授業参観を実施したりして小学校との連携を深めることができた。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人独自の研修を実施し、保育方法の課題や自己課題を明確にして課題の解決にあたっている。また、町の保育協会の研修では、「療育支援につながるまでの対応について」の話を町の保健師心理士さんから話をしてもらった。現場での課題を聴き取り必要な研修をおこなうことで、保育技術の向上に努めている。更なる保育の質の向上を目指すため、外部研修への参加の充実を図り、専門性を高め技術や知識の習得に務めていきたい。